

高校生へ  
私が選んだ  
1冊の本

森博嗣の半熟セミナー  
博士、質問があります！

森 博嗣：著  
(講談社)

助手「ブーメランというと、あの、への字形の投げのやつですね？」

博士「違う、くの字形だ。」

助手「へですよあれは。」

この本は博士と助手の会話によって成り立っています。私が今まで読んだ本の中でも見たことのないスタイルでしたが、読み始めるとどんどん読み進めてしまいました。思わずくすりと笑ってしまうようなフレーズがあちらこちらで入るので、お偉い博士とその助手の堅苦しい講義というよりも、むしろ科学に詳しい友人達と楽しく話をしているようです。また、かわいらしいイラストも入っているので、難しい科学本と思わずに、気軽に読むことができました。ちょっと難しい内容も、分かりやすいたとえ話でだいたい理解できたと思います。

「自転車が倒れないのはどうしてなの？」「鏡って何故、左右だけが逆になるの？」「飛行機を発明したのは？」このような疑問に誰もが一度はぶつかったことはないでしょうか？幼いころは、目に映るものすべてに何故？どうして？と疑問を投げかけていたことと思います。「空はどうして青いの？」「虹はどうやってできるの？」しかし、これらの疑問は科学によって説明できるのです。身近すぎて見逃してしまいがちですが、私たちの

生活のまわりには「科学」がいっぱいあるのです。この本はそのような身近な科学の疑問に一問一答形式で答えてくれます。

内容としては広く、浅く、一つの項目につき見開き一ページという感じなので、この本一冊で幅広い多くの知識を身につけることができました。書いてあるのは身近にある物事ばかりなので、大きくなるにつれて物事を何故？どうして？と考えることが減っていたのだな、ということに気づかされました。また、自転車は何故倒れないのかを理解して、改めて自転車を見つめると、自転車がとても偉大に見えてくるから不思議です。「疑問」を一つ一つ消化すると、見えてくる何かがあります。「科学」を知ることにより、世界は広がります。現代の人達は、こんなに身近に科学があっても、あんまり身近にあるものだから、それが当たり前とってしまいます。そのため、なかなかそういった物事に目はとまってくれません。私たちの時代のテレビは生まれたときにはもうカラーで、今日では3Dテレビまで開発されています。初めてテレビがついて、音が聞こえたときの感動を私たちは知ることができません。知ることはいけませんが、多くの科学を見て、触れて、感じることができます。速く流れている時の中で私たちは生きています。速すぎて、まわりの物事に注意を払う余裕がないのでしょうか。たまにはのんびりとした時の流れの中で物事を一歩引いてとらえてみるのはどうでしょうか。目に映るもの全てがきらきらして見えたあのとき、あの頃に戻ってみると、新たな発見があるかもしれません。

(埼玉県立浦和第一女子高等学校 2年 藤田 琴実)

通巻第68号  
2010年10月5日 印刷  
2010年10月12日 発行

©編集・発行

実教出版株式会社

代表者 島根正幸

定価 210円(本体200円)  
発行所 〒102-8377 東京都千代田区五番町5  
TEL. 03-3238-7777  
<http://www.jikkyo.co.jp/>